

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム釜石		
所在地	〒026-0302 岩手県釜石市片岸町第2地割13-28		
自己評価作成日	令和5年8月10日	評価結果市町村受理日	令和5年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

委員会を構成し、職員1人1人が意識を高く持ち、全員で運営にかかわれるように努めている。
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、沿岸地区を中心に地域密着型サービスなどを経営し、地域の特徴を活かした事業所の主体的運営をバックアップしている。事業所は、高台の住宅地に位置し、頑丈な岩盤の高台に9名定員のグループホームの他、25名定員の小規模多機能センター、12名定員のサービス付き高齢者住宅が併設するH型の形状の建物である。3事業所の利用者は日常生活や行事を共同で行い、職員が一体的に支援を行っている。運営管理者は、職員教育に力を入れ、一定のレベルまでの資質向上を図りたいとの思いを持って職員育成に取り組んでいる。介護の実践に当たっては、看取りを基本として受け入れ、そのため看取り対応を経験した職員が多い。在宅診療を行っているクリニックの医師・看護師との連携による訪問診療体制が整っているため、家族の関心事である看取りや重度化に対応出来る安心感が、事業所と家族との信頼に繋がっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた施設運営を実行するため地域とのつながり、地域の資源であることを念頭に置き職員間の連携に努めています。	会社の理念に加え、開設6年目に職員及び家族からのアンケート結果を基に話し合って作った「笑顔で楽しく」を事業所の理念としている。理念を共有し意識づけしていくため、ホールの壁に掲示したり、運営会議で確認している。職員は、理念を実践に反映するよう介護に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為、積極的な活動は控えている状況であるが、清掃活動に参加したり、地域行事の金銭的な協力をしつつつながりを維持している。	職員は、地域行事である小中学校の帰宅時間に合わせた避難訓練(5月)や掃除活動(6月)に参加し、事業所では、片岸地域の慰霊碑や神社への寄付も行っている。今後は、コロナ禍の推移を見ながら、地区集会場で行われているポッチャや百歳体操への参加も視野に置いている。	コロナ禍のため地域活動や人々との係わりをやむを得ず控えてきたが、今後は、状況に応じ、ともに暮らす一地域住民として、地域で必要とされる活動や役割を担っていかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業の特性は相談時に丁寧な説明をし理解を深めてもらえるよう努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業活動の報告をしながら意見交換をしている。	令和4年度には開催出来なかった運営推進会議を、令和5年度は民生児童委員、老人クラブ、自治会、地域包括支援センター、家族・利用者の代表をメンバーとして、再開している。感染対策上、2回目は地区集会所を会場として開催することとしている。現状、参加メンバーの活発な意見をいただけるかが課題である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域福祉課と頻りに連絡相談のやり取りをしながら連携に努めている。	市の高齢介護福祉課との連絡は、コロナ禍によりメールでのやりとりもあるが、担当課に各事業所ごとの専用のボックスが用意されており、その回収に週1回は出向き担当者と直接会って話すこととしている。生活保護受給者が入居しており、担当ケースワーカーとの関わりも多い。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止委員会を中心に施設内の啓もう活動継続している。	身体拘束を行わないことを基本に支援し、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会・委員会を開催し職員の共通認識の向上を図っている。利用者の行動や心理症状に応じ、必要な場合にはケース会議を開き、問題点や課題を振り返りながら介護の在り方について話し合っている。玄関の施錠は夜間帯(19時～翌5時)としている。家族へは原則身体拘束を行わないことを説明し、行動制限が必要な場合にはその都度説明し、了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止委員会を中心に施設内の啓もう活動を継続している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者から実務(成年後見制度利用者)を通じ必要に応じて職員に制度の内容を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点や疑問があればその都度、説明し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の情報提供時やコミュニケーション時に要望や意見を求めながら運営に反映している。	利用者の思いは、居室担当者が入浴時や普段の支援の中で聞き取っている。食べたい物は、行事食として取り入れている。家族からは、退院後に事業所に戻れるか、受け入れてくれるのかとの不安の声も出ている。出された意見、要望等は朝の申し送りで情報共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2～3か月に1度リーダークラスのメンバー構成で運営会議を行い、運営に関しての意見を出してもらい反映している。	運営者や管理者は、職員の要望や意見を聞くように心がけており、日常的に職員が意見を言い易い環境にある。令和4年度に車椅子使用ワゴン車を、令和5年度には入浴用のリフトを導入し、介護負担の軽減を図っている。運営者や管理者は、現場職員からの情報を得て、話し合いながら支援の調整を図っている。	

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境の改善に努め就労時間も柔軟に対応している。今後は個別の自己評価の実施も検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上は必須条件と捉え新人研修に力を入れ資格の取得など積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流機会がなく今後増やしていきたい。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談の説明だけではサービスの理解ができない場合も多く、何度も連絡を取り合い理解と納得を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の不安感の軽減に努めながら問題点を共有し支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談時において適切なサービス提供かどうかを判断し相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯を一緒に行い、協力してもらっている。レクリエーション活動も一緒に行い活動している。		

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者個別に担当職員を配置し家族との連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過のため面会制限や外出制限があり思うようにできていない。	事業所では、関わる方々との繋がりを維持するため、入居前には地域とどのように関わってきたかの情報を集めたり、入居後も暮らしの中で介助を通じ把握に努めている。親族が利用者の主な馴染みの人であり、コロナ禍でも柔軟に面会を受け入れ、利用者も床屋に行ったり、親戚に髪を切ってもらったり、家族の支援で友人と会っている。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う方や同郷の方を近い席にする等孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組みサービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の在宅サービスや施設入所などに変更した際にはその後の経過を確認したり連携を図っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個別に担当職員を配置し意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で声を掛け、思いや意向の把握に努めている。言葉や表情などから真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思の疎通が困難な方は、家族や関係者から好き嫌いや普段から使っていた物などの情報を得ながら、意向を推察して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中で本人様、ご家族様より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の声かけやコミュニケーションの中で情報収集し把握に努めている。。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期間6か月、長期1年毎に計画の見直しを行っている。利用者個別の担当職員とケアマネによる3か月毎のモニタリングと、カンファレンスを経て介護計画案を作成し、家族の意向を聞き取り、ケアマネが介護計画を作成している。	介護支援専門員と居室担当者、出勤職員でケア会議を行い、モニタリングやカンファレンスを行っている。本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。身心機能の変化など、状況が変化した場合には、現状に即した介護計画に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を取り、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物支援や外出支援などニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を優先しかかりつけ医との関係を支援している。	2名は入居前からのかかりつけ医を受診し、他の利用者は家族等の希望に応じ、訪問診療(5名)、通院診療(1名)、近隣診療所(1名)とかかりつけ医を変更している。看護師は、家族へ通院時のメモを託し又は口頭で状態を伝え、家族からは受診結果の報告を受けている。歯科、眼科の受診は、事業所に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師やその日の介護リーダーに報告、相談し受信や処置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院、退院に際して相互にサマリー作成し情報交換をし対応にあたっている。(医療、介護共通の様式を使用)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく中で多くの家族が利用の継続について不安を抱いており、医療機関と連携し見取り対応を実施していることを初期の段階から説明し理解を求め不安の軽減に努めている。看取りの段階が来た際はその都度意見交換をし支援に努めている。	入居時に看取りについての説明を行っており、その後、状態が変化した時に医師から方向性の説明があり、家族が看取りか延命治療かを選択する機会を設けている。看取り期には、訪問診療と連携して介助しているほか、福祉器具が必要な場合には併設するサービス付き高齢者住宅に住まいを移して看取る場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は日々の実践の中で積み重ねているが、新人職員の教育訓練は現在訓練中。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。現在、BCP(事業継続計画)の作成中)	年2回春と秋に実施しており、令和5年度は春に消防署立ち合いで併設事業所と共同で避難訓練を実施した。事業所は高台に有り、ハザードマップで危険地区にはなっていない。隣接の駐車場は、地域の避難場所として活用されている。非常食、電池式ランタン、カセットコンロ、ボンベ、石油ストーブを備えている。災害時には、近隣の特養と協力して対応することとしている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるということをしっかり理解し、利用者様を尊重する様務めている。委員会でも議題にあげ職員間でも注意するよう意識している。	職員は、利用者をさん付けで呼称し、出来ていない時には、周りの職員で注意し合って改善を図っている。身体拘束、虐待防止委員会では、言葉遣いの見直しを通じ職員意識の改善を目指している。スピーチロックは身体拘束に繋がることから、職員間で特に意識して取り組んでいる。	
----	------	--	--	--	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声かけやコミュニケーションの中で思いや希望をくみ取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室へ戻ったり、ホールで過ごしたり自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、自分で服を用意してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際は何が食べたいかなど聞き取り、できるだけ提供できるよう努めている。食事前後のテーブル拭きを手伝ってもらっている。	本社からの一週間分の冷食メニューから食材を選択し、冷食に手作りのものを併せて入居者に提供している。調理は、朝食は夜勤者、昼夕食は2名の職員が担当している。美味しいものを楽しく食べれるよう、旬のものを取り入れたり、入居者の希望を反映した行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて管理している。10時、15時に水分補給をしてもらっている。その他、ホール内に水やお茶を用意し自由に飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて管理している。時間を見て声かけしトイレ誘導している。	身体機能に応じて手を差し伸べたり、声掛け誘導をしている。トイレでの排泄を基本に、紙パンツ、パット類も本人に合わせて使用している。排泄行為が困難なものトイレ利用を希望している利用者があり、その日の体調を考慮し、コール対応や職員の介助で排泄を支援している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて管理している。レクリエーション活動を通じ適度な運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は予定として決まっているが、その日の体調や、都合に合わせて変更等対応している。	週2回午前9時から11時の間に入浴し、一対一で身体状況に応じて介助している。利用者に声掛けを行い、時間を調整して入浴しており、入浴日等の変更には柔軟に対応している。寛いだ気分で入浴できるよう職員は急がせないことに留意し、利用者は職員と世間話をするなどコミュニケーションの一時にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、自分の部屋で自由に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更都度看護師より注意事項の説明があり、使用、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人に担当職員を配置し対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員と相談の上、日時を決めたりし支援している。	天気の良い日には玄関前の椅子に座って日光浴を行ったり、建物に隣接の駐車場まで散歩している。コロナ禍でドライブの回数が減ってしまったが、春と秋には、少人数で出掛けている。春には海を観て道の駅に立ち寄り、秋には山里の紅葉を鑑賞している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じ対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が郵便物を頼まれて出したり、タブレットを用いてテレビ電話等を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション活動で作成した季節感のあるもので装飾している。温度は大型エアコンにて調整している。	グループホームの他2事業所が共用する大きなホールがあり、ホール内は25℃位を目安に大型エアコンで空調管理している。壁には入居者が作成した作品が貼りだされ、片隅には畑の花を飾ったりもしている。共用の空間は不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	併設の小規模多機能センターのスペースも利用してもらい自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や冷蔵庫など馴染みのあるものを持ってきてもらっている。	居室にはベッドとクローゼット、エアコン、洗面台が備え付けてある。居心地よく過ごせるよう、馴染みの物、自宅で使っていた物を持ち込むように勧めており、利用者のなかには、仏壇や冷蔵庫、テレビなどを持ち込んでいる方も居る。衣装ケースが無い場合には、事業所で提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等には必要以上に物を置かず、わかりやすいように努めている。		